

第2回（12月）会議録

報告「C Sモデル校の取組について」 松任高等学校

（報告内容）

スクールミッション

自己と地域の未来を切り拓く人間力をもち、地域に貢献する人材を育成する

- ・社会の課題の発見および問題解決に取り組むことができる生徒
- ・誠実で思いやりのある心を持ち、仲間とともに協力し合い、地域や社会に貢献できる生徒

地域で学ぶ、地域と学ぶ～松任高校コミュニティ・スクール構想～

【目標】

当事者の連携・協働を通して学びの深化と学校と地域を取り巻く課題の解決を目指す

- ・コミュニティの活性化（学校・地域）
- ・社会参画の意識形成
- ・主体的な学びへの転換

【当初の課題】

教員の業務負担軽減

予算の確保

当事者意識の向上（教員、生徒、地域、保護者）

保護者の学校活動への積極的参加の促進

【方針】

各課、各科がそれぞれ行ってきた既存の地域連携活動をC Sの取組として位置づける。

教員・生徒・地域が「共に学ぶ」関係性を構築する。

→個業から、引き継ぎ・発展の意識

生徒や実施する教員の自己肯定感の高まり

社会が求める資質能力、非認知能力育成への意識の高まり

【取り組み】

①地域振興（コミュニティ型）

- ・総合的な探究の時間における今年度の方向性

「将来戻ってきたくなる地域、ずっと居たくなる地域とは？」

- ・テーマ：観光、ジオ、防災、秋祭り、子ども

- ・探究で目指すのは「生徒の当事者性の高まり」

- ・地域の方からの発案で、堅苦しい教室ではなく様々な場所で地域の方と生徒との座談会を開催

- ・地域の方からの声「教員は異動しちゃうけど、私たちはここにずっといます」

→持続可能になっていくカギは、地域の方との関わり、地域の方の主体的な動き

②地域防災（テーマ型・コミュニティ型）

- ・防災計画二本の柱（5年計画） 「主体的な判断力の育成」「地域との連携」
 - R7 第1段階 知る・体験する
 - R8～9 第2段階 点検する・見直す
 - R10～11 第3段階 行動する

○避難訓練 考えながら、動く→主体的な判断力の育成

避難経路を指定しない

→避難経路上に障害物を配置する、防火扉を閉める、風景が変わった中で判断しながら行動する（判断力の育成）

実施して見えたこと

→地域と共に考える必要性（点呼後は？二次避難所だけど？備蓄品は？）

○防災関連図書 特別展示 →生徒の防災意識を高め、災害を「自分ごと」として捉える

市立図書館と連携して実施

地域の方にも紹介したい、保育園で読み聞かせ出来そう →来年度実行したい

○総合的な探究の時間

楽しい防災→楽しみながら防災意識を高める。地域の方への情報発信。

防災カフェの実施（生徒、地域、保護者、教職員、行政、他校、企業と連携）

地域を巻き込みながら地域の方と一緒に使うコミュニティ・スクールの形が実現。

○教育講演会 「地域とともに考える防災～東日本大震災の経験から」

生徒からたくさんのが想。

一方、保護者、地域の方の来校が少なかったという課題

→どうしたら保護者や地域の方に足を運んでもらえるか。

【今後の課題】

- ①生徒・保護者・教職員・地域が「自分ごと」と出来る取り組みへ
- ②生徒・保護者・教職員・地域が関わり合い。「持続可能」な取り組みへ
- ③取り組みの地域に向けた「発信」と連携の強化

（意見交換） 委員、モデル校関係者からの主な意見

- ・ 地域と学校との関わりなど双方が同じ方向性を持ってないとCSは難しい。
- ・ 公民館との連携強化が必要。
- ・ CSの評価基準は。CSはどのような効果があるのか。
- ・ 家庭、PTAの巻き込みが必要ではないか。
- ・ その学校がもっている「切れない一本の糸」を太くし、持続可能な活動に。
- ・ 高校は地域との距離が小中より遠く、関係性構築が難しい。
- ・ 将来戻って来なくなる地域、ずっといたくなる地域のテーマ設定は素晴らしい
- ・ 地元の企業見学などキャリア教育の重要性。
- ・ 商店街の方と雪かき協定はどうか。雪も防災ではないか。
- ・ 回覧板で周知だけでは周知不足。人がいる場所に出向いて案内してはどうか。